

クレアチニン定量[尿]		13000			
		担当部署			
U-CRE		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	新鮮尿	2 3 スピッツ	なし	10	mL
2	蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			

生物学的基準範囲		設定なし				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>Cr は、尿素窒素、尿酸、と同様に腎機能が低下するに伴い、その血中濃度が上昇する。また、血清 Cr 値は尿素窒素と異なり、食事などの影響を余り受けず GER のより正確な指標として利用されている。さらに、GFR の代用として、Cr の血中濃度・尿中排泄量から算出したクレアチニンクリアランス(CCr)が臨床上では汎用されている。Cr 産生量は総筋肉量に比例し、体重、運動量、腎機能に著変が無い状態では、1 日の Cr 産生量と尿中排泄量はほぼ同様で一定と考えられる。したがって、尿中 Cr の 1g あたりで、随時尿中物質濃度を補正することにより、同一例内ならびに他の症例間でのデータ比較が可能になる。</p> <p>日本臨床第 7 版 642,2009</p>				